

災害救護対策委員会 Presents

PART 1

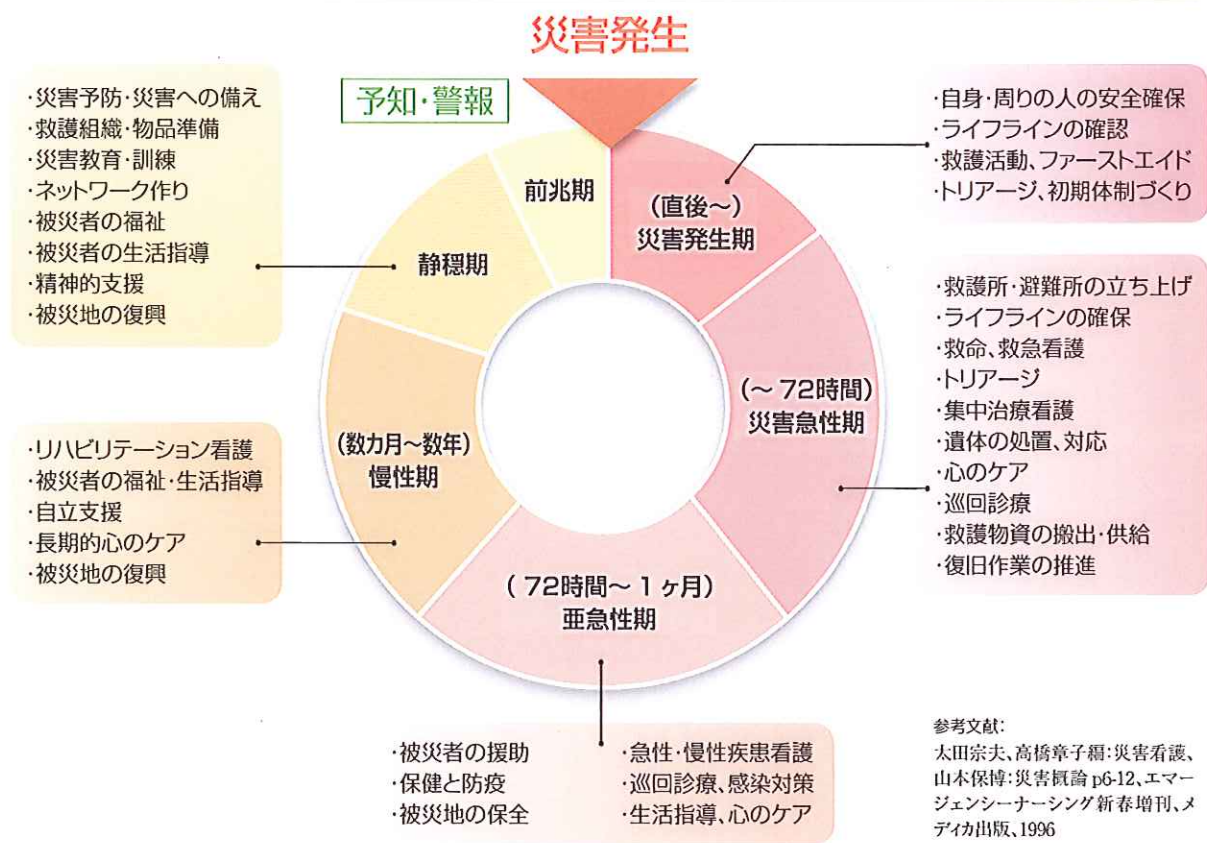
災害サイクルを
ご存じですか？

災害看護

日本看護協会では災害看護を「災害時に私たち看護に携わる者が、知識や技術を駆使し、ほかの専門分野の人々との協力のもとに、生命や健康生活への被害を少なくするための活動を展開すること」と定義しています。災害時における看護の役割は、災害の種類、時間(軸)、活動場所、職能や立場、支援の参加の仕方により変化します。

図1の災害サイクルからみた災害看護を理解しましょう。どんな場面であっても対象者の生命と健康な生活への回復を支援する、という看護の基本に変わりはありません。

【図1 災害のサイクルからみた災害看護】



日本集団災害医学会では、集団災害を「巨大な破壊的な出来事によって人と周囲との環境にきわめて重大かつ急激な変化が発生し、外部からの大規模な援助が必須となるほどの非常事態をいう」と定義しています。つまり、通常の医療体制の中で行われる救急看護とは異なり、災害看護の中でも特に急性期では、医療の需給のバランスの急激な崩壊が起こっている中で展開していく必要があります。

災害は発生直後だけでなく、数週間から数カ月、場合によっては数年に及ぶ長期間にわたって、個人のみならず被災地の集団生活に影響を及ぼし、健康障害をもたらすという事を理解しましょう。図1に示すように、人々の生活や心身の状況は、災害サイクルに対応して変化するため、看護職はそれぞれの時間的経過で、ニーズに応じた身体面から精神面にわたる看護活動を行っていくことが必要です。

▶ 次回は「トリアージ」をご紹介します。お楽しみに！